



正直、保育以外の仕事を している自分が 想像できないんです

**卒園式前日、子どもたちが
見せた「思いやりの成長」**

2025年、園の職員体制が大きく変わる中で、年長クラスを担任することになりました。子どもたちも保護者の方も含めて関わる方ばかりで、短い期間で信頼関係を築かなければならず、最初は探り探りのスタートでした。でも、誠実に向き合う中で少しずつ心を開いてくれるようになり、いじか先生に会いたくて来たひと言でさえもまの間の関係になったんです。

一番胸が熱くなったのは、卒園式の前日でした。全員で言葉をつなぐプログラムがあったのですが、急速



ディズニーランドで全力のリフレッシュ！
onとoffの切り替えも、
輝く笑顔の秘訣です

一人の欠席が決まってしまう、その子の担当部分をどうしようかと思っていたら、周りの子どもたちが自然と「自分が言う(中)って手を挙げてくれたんです。子どもたちの優しさや思いやりの成長が本当に嬉しくて、涙が出そうになりました。卒園後も会いに来てくれる子がいたりして、「私の保育がちゃんと届いていたんだな」と思える大切な宝物になりました。

**生後5か月の
「初めての寝返り」**

現在は0歳児クラスを担当しているのですが、先日、生後5か月の子が園で初めて寝返りをした瞬間に立ち会いました。お母さんの「初めての瞬間を私たちが奪ってしまったような申し訳なさも少し感じたのですが、だからこそその後の共有をとても大切にしています。今はアプリでの記録が主流で便利になりましたが、ただの無機質な事務連絡にはしたくなくて、必ずその瞬間のドラマや成長の様子を文章に込めたいと思っています。

「一緒に育てていきましょね」という気持ちを込めてお迎えの時に口頭でしっかり補足して、保護者の方と一緒に成長を喜ぶの。これこそが、私のプロとしてのこだわりです。

輝く笑顔！全国ほいくの人

vol.01 長崎県 保育教諭Cさんインタビュー

保育教諭 Cさん
都道府県 長崎県
経験年数 9年目

子どもたちの笑顔の裏側にある、日々の小さな積み重ねや丁寧な関わり。そんな“現場のリアルな輝き”を届ける新連載。
記念すべき第1回は、長崎県で働く保育教諭9年目のCさんです。異なる保育方針の園への転職を経験し、現在は中堅として園を支えるCさんの穏やかな語り口の奥にある、保育への熱い想いと原点に迫ります。

迷いながら、
仲間とともに

中学生の頃に決めていた
「保育」の道

私が保育の道を選んだきっかけは、中学生の頃に遊りました。12歳上の姉に子どもが生まれ、同世代の友だちよりも早く「叔母」として赤ちゃんと関わる経験をさせてもらいました。子どもと関わる仕事っていいな。その時に胸に灯った小さな灯が消えることはなくて、ごく自然に保育の道へと進むことを決めていました。

ただ、夢を叶えて実際に現場に飛び込んでみると、理想だけでは進まない現実もありました。子どもと関わるだけじゃないんだって。日々の記録や事務作業、実習生のサポートなど、裏側の仕事が多くて、最初はギャップに驚いたし、目の前のことに必死で、毎日があっという間に過ぎていく1年でした。

それでも乗り越えられたのは、本当に優しく支えてくれた先輩の先生たちがいたからです。あの1年があったからこそ、今の私の保育があると思っています。もちろん、大変な日だってありますが、子どもたちと関わっていると自然と元気が湧いてきて、「やっぱりこの仕事が好きだな」と思えるんです。

「先生に会いたくて来たよ」の
裏側にある、丁寧な関わり

最初の園では「運動教育」に力を入れている環境で、多くを学びました。そして2園目となる今の園は「子どもの主体性」を大切にする保育を行っていて、まったく違う方針の園を経験したからこそ、目の前の子ども一人一人と丁寧に向き合う眼差しが磨かれたと感じています。

そんな日々の中で、子どもたちや保護者の方とのつながりを深く実感できた、忘れられないエピソードがあります。

「ありがとう」「ごめんね」が
言える人として大事なことを
伝えられる大人でありたい

保育士として9年目を迎える、園の中ではベテランと新人をつなぐ「中堅」という立場になりました。
同僚の先生たちに対して、ベテランにも新人にも話しかけやすく、何でも相談し合える人間関係の雰囲気意識しています。

全国の先生たちにメッセージ

最近では保育に対する世間の目も厳しくなっていて、自分の保育に迷うこともたくさんあると思います。でも、私は「迷いながら正しい」と思っています。子どもの成長と一緒に見守る仲間として、全国の先生たちとつながりながら、これからも前向きに頑張っていきたいです。



休日には推し活ライブやイベントへ参加し
応援しています

【編集後記】
Cさんのお話から伝わってきたのは、変化を恐れず、常に目の前の子どもや保護者に寄り添い続ける「丁寧さ」でした。迷いながらも前を向く姿は、まさに全国の保育現場を支える私たちの等身大の輝きそのものだと感じました。

(青年会議広報部)